国語科通信

まなび！net

Vol.04
2021.09

秀学社

- **国語科の授業のアイデアを広げたい！**
- **具体的な実践事例を知りたい！**
- **授業の導入に使える小話はないだろうか？**

そんな先生方のために，秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

GIGAスクール構想 1人1台端末を効果的に活用した国語実践Ⅱ

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校
土持（つちもち）　知也（ともや）

前回は一人一台端末の強みを生かした授業をしていくために、導入期の授業実践を紹介した。今回はその次のステップである、展開期の授業実践例を紹介する。展開期では、教員が学習を効果的かつ効率的に進められるように考えるだけでなく、生徒自身が活用の仕方について考えていくような使い方ができるようになるとよい。また、アカウントを使ってクラウドサービスを使う場面も想定されることから、端末使用のルールや情報モラルについても共有していきたい。

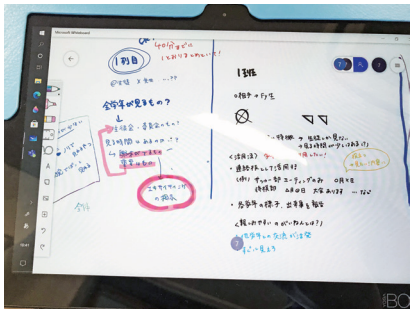
展開期における一人一台端末を生かした国語実践

端末を導入してから日常に馴染ませ展開するには、新しい発想で考えていくことよりも、これまでの授業に端末を組み込んでいくことを意識していきたい。これまでの授業で、アナログであった部分をデジタルに変えていく発想である。もちろん、デジタルには良し悪しもあり、また、学校や地域の環境、教室のデジタルの環境がどのくらい整っているのか等も関連してくるので、導入期と同様に使うことを目的とせずに、無理のない範囲で日常に組み込んでいきたい。

1　互いの発言を生かしながら話し合い、考えを深める単元

三年生の話し合いの授業の中で、情報を共有するためにMicrosoft Teamsのホワイトボード機能を使用した授業例である。コロナ禍で、考えの交流や共有を図ることが難しい現状だが、個人の端末を使ってホワイトボード機能を使って書き込むため、道具を共有することがない。その上、ホワイトボードはクラウド上で共有するため、同時に編集でき、さらに記録を残しておくことができるため、いつでも見返すことが可能となった。

◀授業の様子



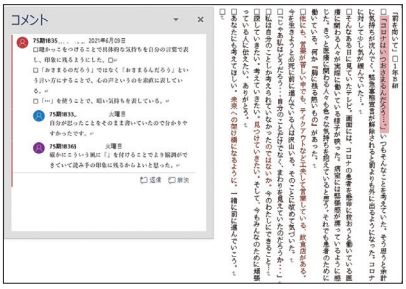
実際に使用した▶
ホワイトボード機能

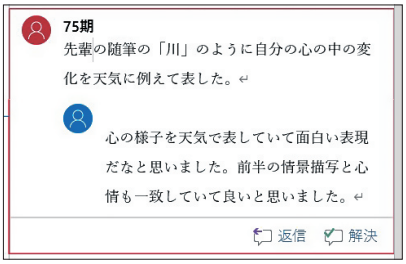
2 紙面に応じて読みやすく丁寧に書く単元

一年生の書写において、字形を整え、文字の大きさ、配列などを意識しながら、楷書で丁寧に書けるようになることを目標にした授業例である。一年生の最初の段階では、とめ・はね・はらいなど、小学校までに身に付けたことを丁寧に確認したいところである。今回は手本の動画をクラウド上で共有し、生徒は手元で何度も動画を確認できるようにした。これまではプロジェクター等を使って、一斉に確認をしていたが、個人の端末で動画を見られることで、それぞれの課題を自ら解決しようと、何度も練習に取り組む姿が見られた。これまでの学習に端末を活用しただけだが、個別最適な学びの実現を目指す上でも、有効な使い方であったように思う。

3 描写を工夫して随筆を書く単元

一年生の書くことの授業で、Ｗｏｒｄソフトを使って随筆を書かせた。その際、書き手の工夫を、コメント機能を用いて可視化させた。また、ファイルはクラウド上で共有し、誰でも読んでコメントができるようにした。そうすることによって、書き手の工夫に対して、読み手が感想や助言などを返せるようになった。これまで、ふせんなどを用いてコメントの交流などを行っていたところを、今回はクラウド上で交流することができた。





目の前の生徒・環境に合わせて使っていく

今回はこれまでアナログであった交流の一部分について、端末を使って授業を行った。これからも無理のない範囲で活用し、端末が日常の授業に馴染むようにしていきたい。

〔編集部のつぶやき〕

皆さんは、誰かと話していて「そういうことじゃないんだけど…」などと思うようなことはないですか。また、人の話を聞くときに、どこか上の空できちんと聞いていないことはないですか。「きちんと聞いてもらえなかった」と思うことは多いですが、一方で「聞く」ことについてきちんと教えられた経験は少ないのではないでしょうか。

『LISTEN―知性豊かで創造力がある人になれる』（ケイト・マーフィ著）は、「聴く」に焦点を当てた本です。「能動的に聴く」とはどういうことか、実例を交えながら丁寧に説明されています。「能動的に聴く」のは実際には難しいことですが、その先には豊かな人生が待っているのだと実感できます。

「話す・聞く」の参考にも、おすすめの一冊です。（編集部：目次）

秀学社 国語科 LINE公式アカウント
コクカフェ
▼役立つ情報を配信します。
ぜひご登録ください。